

米軍基地環境カルテ

天願棧橋（施設番号：FAC6028）

沖 縄 県

改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」の内容を反映させた改訂。
第3版	令和8年2月	「沖縄の米軍基地（令和6年3月沖縄県）」及び「環境白書（平成27年度報告～令和5年度報告沖縄県）」の内容を反映させた改訂。

年月日	頁	該当箇所	追補・変更内容
令和 2 年 3 月 20 日	26-10	26.6 その他情報	表 26-2、年月日『1957 年 7 月 8 日』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局 (NARA) で収集した『1966 年 4 月 2 日』の項目を追加

目 次

26. 天願棧橋（施設番号：FAC6028）	1
26.1 基本情報	1
26.1.1 名称	1
26.1.2 所在地、広さ（施設面積）	1
26.1.3 施設の概要等	2
26.1.4 施設の管理及び用途	3
26.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	3
26.1.6 土地利用規制図	3
26.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	3
26.2.1 基地等の土地の状況	3
26.2.1.1 地形分類図	3
26.2.1.2 表層地質図	3
26.2.1.3 土壌図	3
26.2.1.4 切盛土分布図	3
26.2.2 基地内の施設の使用状況	4
26.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	4
26.2.2.2 施設等使用履歴	4
26.3 基地等の環境状況	5
26.3.1 自然環境（植物）	5
26.3.1.1 現存植生図	5
26.3.1.2 植生自然度図	5
26.3.1.3 特定植物群落	5
26.3.1.4 重要な種、貴重な種等	5
26.3.2 自然環境（動物）	5
26.3.2.1 重要な種、貴重な種等	5
26.3.3 水利用状況	6
26.3.3.1 水利用状況	6
26.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	7
26.3.3.3 河川及びダムの分布状況	8
26.3.4 地下水の状況	8
26.3.4.1 地下水基盤面等高線図	8
26.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	9
26.4.1 事故等の概要	9
26.4.2 事故等発生場所	9
26.5 環境調査を実施する場合の留意事項	9
26.6 その他情報	9
26.7 環境等に関する通常監視について	10

26. 天願棧橋（施設番号：FAC6028）

26.1 基本情報

26.1.1 名称

天願棧橋（施設番号：FAC6028）

26.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和47年5月15日>

所在地：具志川市字昆布

広 さ：約42千㎡

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15メモ等）（仮訳）」（1972年5月）

（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf）を参照

<令和6年3月現在>

所在地：うるま市（字昆布）

広 さ：31千㎡

地主数：9人

駐留軍従業員数：一人

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

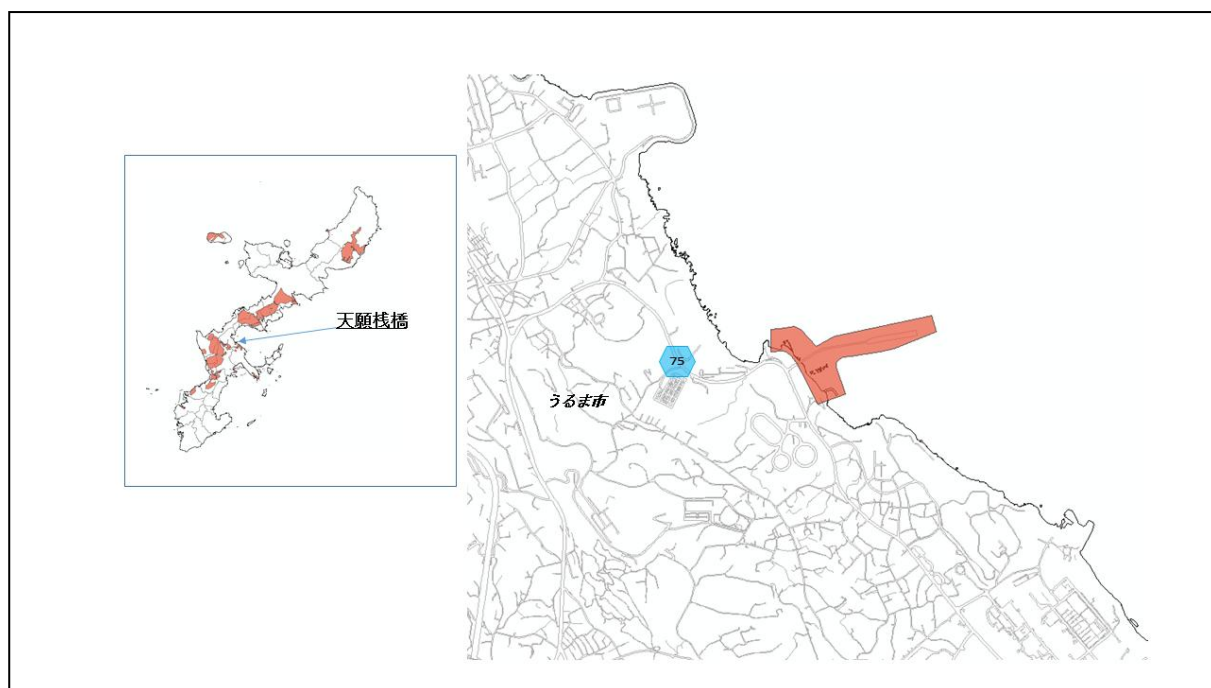


図 26-1 天願棧橋の位置図（平成28年時）



図 26-2 天願棧橋の位置図（昭和 47 年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

図 26-3 天願棧橋の航空写真

26.1.3 施設の概要等

本施設は、燃料、弾薬の搬入、兵員の輸送等東海岸における主要港湾施設であり、その西側を県道「沖縄石川線」と接し、県道の西側には陸軍貯油施設がある。

東側及び北側は海岸に面して東側から海側へ棧橋が延びた形となっており、船舶が同時に棧橋兩岸に接岸できるといわれ、陸上部分には荷物野積場及び管理事務所がある。

また、栈橋の沖合には陸軍貯油施設に燃料を輸送するための「送油ポイント」があり、タンカーによる油類の搬入港として使用されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）参照

26.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：在沖米海軍艦隊活動司令部

使用部隊名：国防兵站局エネルギー部門、海軍、海兵隊、空軍

使用主目的：港湾施設

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

26.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

<返還計画>

なし。

<跡地利用計画>

具志川市（当時：現うるま市）においては、個性ある海洋リゾート環境や合理的なアクセス基盤の整備などウォーターフロントシティの創造を目指し検討が行われ、平成4年8月に、天願栈橋転用計画が策定されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

26.1.6 土地利用規制図

天願栈橋及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図B」に示す。

26.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

26.2.1 基地等の土地の状況

26.2.1.1 地形分類図

天願栈橋及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図B」に示す。

26.2.1.2 表層地質図

天願栈橋及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図B」に示す。

26.2.1.3 土壌図

天願栈橋及び周辺の土壌図を図面集「土壌図B」に示す。

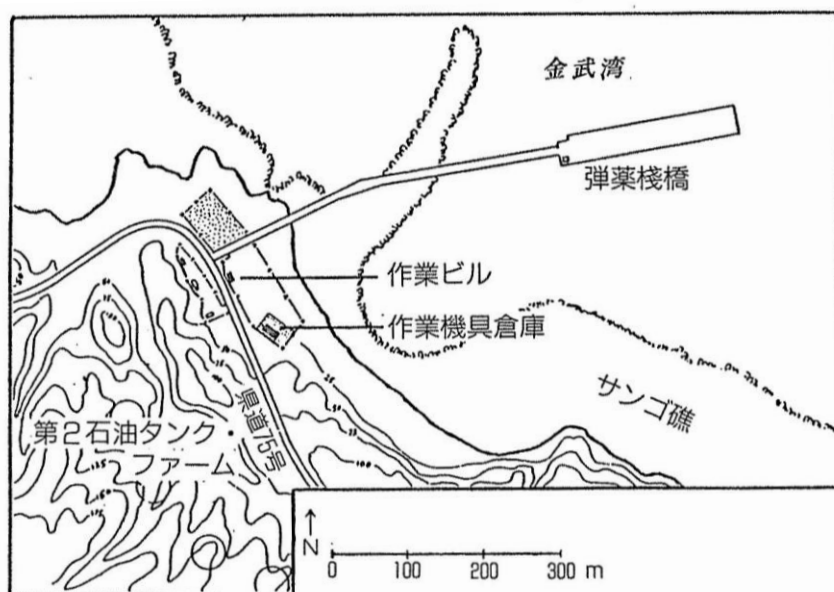
26.2.1.4 切盛土分布図

天願栈橋の切盛土分布図は作成されていない。

26.2.2 基地内の施設の使用状況

26.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

米海軍施設技術軍太平洋部「沖縄艦隊基地／嘉手納海軍航空基地マスタープラン」（1985年9月、情報公開法にもとづく公開）を基にした天願棧橋の施設配置図を図26-4に示す。



出典：「情報公開法でとらえた沖縄の米軍」（1994、梅林宏道）から引用

図 26-4 天願棧橋の施設配置図

26.2.2.2 施設等使用履歴

昭和20年	軍事占領と同時に、海兵隊基地として使用開始。
昭和25年7月1日	棧橋部分を建設。
昭和38年	棧橋を拡張。
昭和46年1月	毒ガスの積出し港湾として使用される（第1回目）。
昭和46年8月31日	施設拡張のため米軍が接收した後、背後地（約69,000㎡）が関係地主等の強い反対に合い返還。
昭和47年	毒ガスの積出し港湾として使用される（第2回目）。
昭和47年5月15日	「天願棧橋」として提供開始（使用主目的：港湾施設）。
年月日不詳	施設管理権が海兵隊から海軍へ移管。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

建 物：管理事務所、倉庫、哨舎

工作物：棧橋、保安柵、集積場ほか

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

26.3 基地等の環境状況

26.3.1 自然環境（植物）

26.3.1.1 現存植生図

天願栈橋及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図B」に示す。

26.3.1.2 植生自然度図

天願栈橋及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図B」に示す。

26.3.1.3 特定植物群落

天願栈橋及び周辺において、特定植物群落の該当はない。

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成12年3月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

26.3.1.4 重要な種、貴重な種等

天願栈橋及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）は確認できなかった。

出典：「～平成27年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

26.3.2 自然環境（動物）

26.3.2.1 重要な種、貴重な種等

天願栈橋のあるうるま市で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される重要な種、貴重な種等（動物）は46種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針〔沖縄島編〕」（平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照

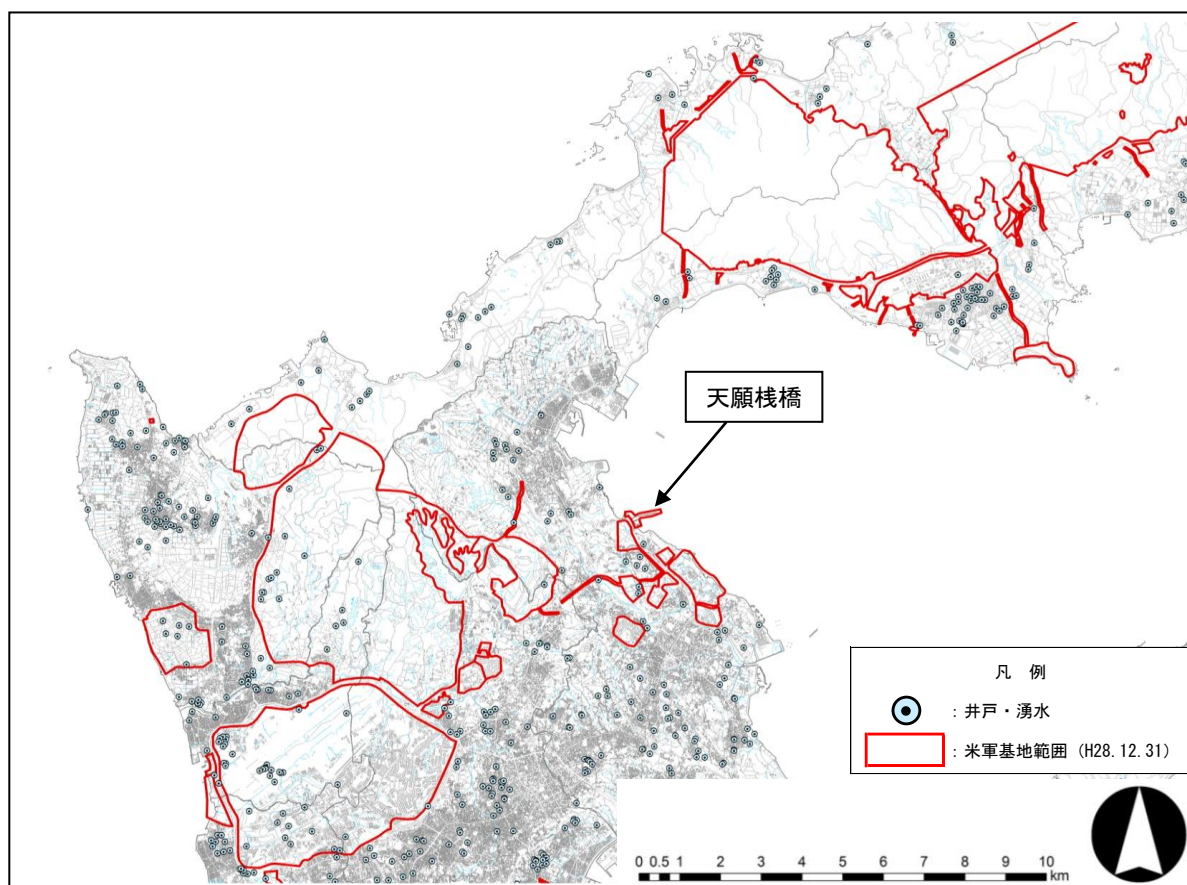
26.3.3.1 水利用狀況

[illegible]

図 26-5 沖縄島及び周辺の水利用状況

26.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

天願棧橋及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 26-6 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、第 269 号）」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 26-6 天願棧橋及び周辺の井戸・湧水分布状況

26.3.3.3 河川及びダムの分布状況

天願栈橋及び周辺の河川、ダム分布状況を図 26-7 に示す。天願栈橋及び周辺に、二級河川、準用河川、国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、第 301 号）」
出典：「国土地理院地図（平成29年 3 月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、
「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照
図 26-7 天願栈橋及び周辺の河川、ダム分布状況

26.3.4 地下水の状況

26.3.4.1 地下水基盤面等高線図

天願栈橋及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「地下水基盤面等高線図B」に示す。

26.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

26.4.1 事故等の概要

天願棧橋及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の概要を表 26-1 に示す。天願棧橋では、停泊中の船舶から多量のばいじんが排出、金武湾一帯の海域を汚染した事故が確認された。

表 26-1 天願棧橋及び周辺における環境関連事故等の概要

発生年月日	発生場所	概要	備考
昭和 51 年 7 月 7 日	具志川市	天願棧橋に停泊している米海軍のチャーター船から多量のばいじんが排出、金武湾一帯の海域を汚染した。	ばいじんによる海域汚染

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県総務部知事公室基地対策室）を参照

26.4.2 事故等発生場所

天願棧橋における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

26.5 環境調査を実施する場合の留意事項

天願棧橋において、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- | | |
|---|--|
| 1 | かつて船舶が接岸していることから、船舶からの油及び有害物質等の流出による海域汚染が懸念されるため、周辺海域の底質調査を行う。 |
| 2 | 送油施設があることから、土壌及び地下水汚染調査を行う。 |

26.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下「NARA」という。）で収集した在日米軍関係資料のうち、天願棧橋及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 26-2 に示す。

天願棧橋及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 26-2 天願棧橋及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1957 年 7 月 8 日	ナイキ・サイト	文書	Nike Project は天願も含め、8 箇所であることが記されている。なお、原文は天願または屋嘉ビーチと記載があるだけで場所の詳細は不明である。
1966 年 4 月 2 日	—	写真	天願棧橋の写真（1966 年 2 月完成、コンクリート製）。
1966 年 11 月 15 日	—	文書	爆発物や化学関係はホワイト・ビーチ地区、天願棧橋、金武レッド・ビーチ訓練場などで取り扱われていたと記されている。
—	—	文書	天願棧橋見取り図が記されている。
1959 年 2 月 26 日	発電所	文書	沖縄の発電所情報が記されている。天願棧橋か天願通信所かは確認ができていない。
1965 年、 1971 年	レッドハット作戦 関連経由 箇所	写真	レッドハット作戦時に、天願棧橋で、化学兵器をトラックから降ろし、船に積み込む様子を撮影した写真等。 第 267 化学部隊が、知花弾薬庫から天願棧橋まで化学兵器を輸送する最終的な予行演習を実施していた。また、化学兵器を積むトラックの後ろには檻に入ったウサギを置いていた。化学兵器からの毒ガスの漏れがあった場合には、直ちにウサギに影響することになる。

26.7 環境等に関する通常監視について

天願棧橋及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていない。

出典：「環境白書」（昭和 51 年度報告～令和 5 年度報告、沖縄県）を参照